

# 人工関節友の会だより

2018.10.1

No. 7

## 人工関節手術には注意点もたくさんある。

猫山宮尾病院 院長 宮尾益尚

我が国のような高齢化社会において、変形性股関節症・変形性膝関節症に対する人工股関節・膝関節置換術は年々その手術件数が増加し、毎年何万人単位の患者様がこの手術によって関節の痛みから救われています。

当院でも人工股関節置換術・膝関節置換術合わせて年間460件以上の手術が行われ、多くの皆様から「関節の痛みが取れた、楽になった」というお言葉を頂いております。

もちろんいつもお話していますが、手術を受けるだけで治る訳ではなく、患者様がリハビリテーション面で頑張ってください、お互いに協力し合って痛みが軽減していくので、患者様の治療への御参加・御協力が無ければ良い結果は得られません。

手術後多少辛い時期を乗り越えて多くの患者様が治っていくのですが、手術というものには人工関節置換術に限らず様々な「注意点」もあります。

この「注意点」というのは手術の合併症を防ぐために患者様にも知っておいて頂きたい重要なポイントです。

そのいくつかを御説明差し上げます。

まず、手術前後に使用する薬剤が数種類あります。麻酔薬・抗生剤（化膿止め）・消炎鎮痛剤（痛み止め）などですが、このような薬剤に対するアレルギーなどの反応（じん麻疹、血圧低下、吐き気など）が起こる事もあります。これに対しアレルギー反応を抑える薬や血圧を上げる薬、吐き気止めなどの対応を準備しています。

術後の痛みに対しては、手術終了直前に特別な痛み止めを関節内に注射したり、消炎鎮痛剤（内服・坐薬・注射）を準備して対応します。

手術中・手術後の出血により貧血が進む場合があります。これに対して術前に準備する自己血や、献血で用意された他家血の輸血で対応します。

術後安静期間が長いと血栓症（いわゆるエコノミークラス症候群）を発症する事が稀にあります。足関節（足首）の運動やふくらはぎを圧迫する弾性ストッキングの装着、ふくらはぎ～足に巻きものをして空気を送り込み膨らませるフットポンプの使用、血栓形成抑制剤（血が凝固しないようにする薬）の注射・内服などにより予防します。

ばい菌が入って膿が溜まる感染症の発症も時々あります。抗生剤点滴・内服で対応し、どうしても治らない場合は追加手術を行う事もあります。

また、術後ちょっとした油断で転倒し、人工関節周囲に骨折が起こり骨折に対する手術を受ける場合もあります。

もっと長い目で見ると術後10～20年経過し、骨が弱くなり人工関節がゆるんでしまい、もう1回入れ替える人工関節再置換術を受ける患者さんもあります。

この様に手術というのは多くの「注意点」も存在しますが、これら全てにおいて患者様の御理解と御協力が無ければ、我々医療サイドだけでは防ぎきれません。

手術は「受ける治療」、リハビリテーションは「やる治療」という説明は以前にもしましたが、注意点・合併症予防に関しても患者様の治療への「参加」が不可欠です。

患者様・医療サイドがお互いに協力し合って初めて良い結果が出ます。みんなで頑張ってお互いの痛みを無くして行きましょう！